

2022（令和4）年度
教職課程 自己点検評価報告書

生活文化科健康栄養専攻

令和5年5月
聖霊女子短期大学

目次

I	教職課程の現状及び特色	1
II	基準領域ごとの自己点検・評価	
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	1
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	4
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	6
III	総合評価	8
IV	現状基礎データ一覧	10

I 教職課程の現状及び特色

1 現状

(1) 大学名：聖霊女子短期大学 生活文化科 生活こども専攻
生活文化科 健康栄養専攻

(2) 所在地：秋田県秋田市寺内高野 10 番 33 号

(3) 学生数及び教員数

(令和 4 年 5 月 1 日現在)

学生数： 教職課程履修
生活文化科 健康栄養専攻 85 名／学科全体 257 名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）
生活文化科 健康栄養専攻 9 名／学科全体 12 名

2 特色

(1) 長所・特色

本学は、幼稚園教諭二種免許状および、栄養教諭二種免許状の教職課程を設置している。

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

聖霊女子短期大学の建学の精神は、カトリックの価値観、世界観、人間観に基づいて真理を探究し、愛に生きる全人教育である。学科（生活文化科）、2 専攻（生活文化専攻・生活こども専攻・健康栄養専攻）から構成される 2 年課程の短期大学である。健康栄養専攻は、秋田県内では栄養教諭の教職課程を設置する唯一の教育機関である。

II 基準領域ごとの自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

[現状説明]

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

本学の教育目標は、建学の精神であるイエス・キリストの愛に根ざし、人間一人ひとりが神から与えられた、かけがえのない存在であるという確信にもとづいている。神と人から愛されていることや、豊かな可能性が与えられていることに気づかせ、知性をはじめ全ての能力を開花させるように、教育計画を構想し、実践している。特に、女性の尊厳と特性、使命を理解させ、さらに地球家族の一員として、国際的視野をもって他人に対する尊敬と思いやりを実行できる人間形成を目指している。

健康栄養専攻の教育目的は、栄養学の幅広い学習により、心身の健全な発達、健康の維持に係

わる事項について理解し、実践力を身につける教育・研究を行い、相互愛をもって健康維持に資する栄養士として、社会に貢献できる人材の育成である。

〔長所・特色〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

教職課程においては、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に対応し、目指す栄養士、栄養教諭像を示し、新生及び在学生オリエンテーションにて学生に周知している。また、自治体の資料を参考にして、教職志望者のための1年前期の授業の初回に目指すべき教師像の説明を行っている。また、カリキュラム・マップを作成するとともに、ディプロマポリシーと関連付けて、学習成果として可視化している。さらに、栄養教諭課程の履修モデルを作成し、学生便覧及びホームページで学生に公表している。健康栄養専攻の授業科目のシラバスでは、教職課程に求められる目標を踏まえ、各授業科目の到達目標及び各授業の履修を通して得られる学習成果を記述している。同一科目を複数の教員が担当する際には、シラバス作成時に教員間で打ち合わせを行い、シラバスの整合性を図っている。「栄養教育実習」の事前・事後指導では、栄養教諭校外実習委員会において、実施計画に基づき、関係委員の教員が分担して適切に行っている。

「教職実践演習(栄養教諭)」においては、教職課程の授業を担当する教員が実施計画を作成し、教育実習等の成果と課題を踏まえて実施しており、「履修カルテ」の記入を通じて学生に学習成果と課題を自覚できるよう指導している。

〔取り組み上の課題〕

目指すべき栄養教諭像の実現に向けて、教職課程教育を計画的に実施できている。履修カルテ(教職ポートフォリオ)を通じて、教員の資質能力の育成指標を確認しつつ実施している。ただし教職ポートフォリオについては学生・教職員から分かりにくい部分もあり、次年度から見直しをしていくこととしている

根拠資料

- ・ 学生便覧：健康栄養専攻の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)
- ・ 秋田県「求める教師像」
- ・ 栄養士課程の手引き（教育課程（栄養教諭二種）含む）

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

教職課程のカリキュラムについては、全学的組織「教務部会」が設置されており、そこで各専攻の教職課程の取り組みや課題を集約する体制が構築されている。提出された課題については、部会で検討を行い、課題解決を図り、フィードバックしている。栄養教育実習、教職実践演習などの具体的な取り組みについては、栄養教諭校外実習委員会が機動的に対応する体制が整っている。こうした体制によって、教職課程の自己点検のサイクルが形成され、これによって、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能している。

〔長所・特色〕

生活文化科 健康栄養専攻〔栄養教諭二種免許状〕

本学の教職課程の特色は、建学の精神である、イエス・キリストの愛の根ざし、人間一人ひとりが神から与えられた、かけがえのない存在であるという確信に基づいている。神と人から愛されていることや、豊かな可能性が与えられていることに気づかせ、知性をはじめ全ての能力を開花させるように、教育計画を構想し、実践している。特に、女性の尊厳と特性、使命を理解させ、さらに地球家族の一員として、国際的視野をもって他人に対する尊厳と思いやりを実行できる人間形成をめざしている。上記の特色を具現化するため、本学の特色である「キリスト教学」「女性論」等を通して、総合的な人間力を高める指導を重視した教員養成に取り組んでいる。教職課程における教育目標及び目指すべき教師像は、三つの方針を踏まえて設定したものを入学段階や進級段階のオリエンテーション等をとおして学生に周知をしている。その際、各学科の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と関連づけたカリキュラム・マップ及び学習成果、履修モデルを提示し、それらに関連付けて教員免許状取得のための単位履修の可視化や確認、また教育実習の心構え等を自己理解・自己確認できるようにしている。さらに、「履修カルテ」を用いた1年次からの計画的な教職履修指導における教職履修や教員採用試験に至るまでの進路指導をし、段階的・体系的に実践的指導力が身につく構造となっている。教育実習の事前・事後指導については、実習委員会が作成した実施要項の計画の下に、担当教員が目標を共有し組織的に実施されている。

〔取り組み上の課題〕

栄養教育実習、教職実践演習などの具体的な取り組みについては、栄養教諭校外実習委員会が対応し、健康栄養専攻会議にてフィードバック、必要に応じて検討する体制が整っている。全学的組織「教務部会」が設置されており、そこで各専攻の教職課程の取り組みや課題を集約する体制が構築されているが、全学の教職課程を組織的な運営については一層の充実が必要である。

根拠資料

- ・ 栄養士課程の手引き（教育課程（栄養教諭二種）含む）
- ・ 新入生オリエンテーション計画
- ・ カリキュラム・マップ
- ・ 学習成果の達成状況（G P Aの変容）
- ・ シラバス様式
- ・ 履修カルテ様式
- ・ 栄養教育実習の事前・事後指導実施計画
- ・ 栄養教育実習要領

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保

〔現状説明〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

健康栄養専攻においては、取得できる教員免許に関して、栄養士養成課程を前提として教育課程を編成しており、食育指導者を養成する教職課程の目的を入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)において記述している。オープンキャンパスでは、取得できる教員免許の説明を学生が行って関心を高めている。さらに、個別相談で教職課程履修学生への相談を受け付け、学生自身の教職への思いを広報できるように設定している。そして、高校訪問では、本学で取得できる教員免許についてガイドブックの事例をもとに紹介している。

健康栄養専攻の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

- ①本学の建学の精神、教育理念に共感し、真理、愛、自由の探求をしようとする人。
- ②食と健康の専門的知識と技術を学ぶための基礎学力を備えた人。
- ③食生活に関わる課題解決に向けた探求の土台となる論理的思考力を備えた人。
- ④地域社会やグローバル社会に貢献しようとする意欲を持ち、主体的に他者や多様な文化を理解しようとする思いやりの心や、協働するためのコミュニケーション力を備えた人。

〔長所・特色〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

健康栄養専攻では、栄養教育実習の参加資格を1年次の栄養士必修科目、教職科目をすべて履修済みであることに設定し、実習参加か適当な学習状況であるかを校外実習委員会において確認した上、事前指導を行って学生を実習へ参加させている。

〔取り組み上の課題〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

栄養教育実習前の1年次に、児童対象の公開講座の参加などの経験と振り返りを行うことにより、学生の食に関する指導力を高める工夫をしている。コロナ感染症対応で機会が減少したため、今後さらなる充実が課題である。

根拠資料

- ・栄養教育実習要領

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

教職に関する科目の履修を通し教職指導を行うが、教職科目の担当者は、個々の学生の履修状況について履修カルテを通じて確認し、各自担当科目について、優れている点や補完すべき点などを履修カルテに記入する。また、教育実習の事前事後指導を行う際には、栄養教諭校外実習指導要領に基づき個別の学生に指導を行うほか、実習校担当者ともこの指導要領を利用した綿密な調整を行い、実習により学生の能力が高まるよう務めている。その他栄養教諭である卒業生にキャリアデザインの時間に招待講演してもらい、学生の栄養教諭へのモチベーションを高めている。

〔長所・特色〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

栄養教諭に関して1学年前期の終了時に履修カルテを書かせ、栄養教諭としての資質について、各自の課題を自覚させる場としている。2学年の栄養教育実習事前指導の際に、履修カルテを記述させ、「栄養教育実習」への具体的な目標を設定できるようにさせている。2年後期に行われる栄養教育実習報告会時に履修カルテを記載し、「教職実践演習」を通じて完成させる。実習履修規準に該当する学生については、クラスアドバイザーと連携し専攻内教職担当教員が個別面談を実施、指導している。さらに、栄養教育実習事後報告会において、全ての学生に報告させることによって、学生の適性や資質に応じた対応を行っている。

〔取り組み上の課題〕

健康栄養専攻の校外実習は、給食管理実習、栄養教育実習ともに2年前期に行われ、事前指導を含めて短期間の効果的な指導が必要であるため、実習担当者間の連携・調整、指導時間の確保などの充実を図り、効果的な指導していく必要がある。

根拠資料

- ・栄養教育実習要領

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

栄養教育実習の担当教員が秋田県教育庁保健体育課及び秋田市教育委員会学校教育課指導主事と科目に関する連絡調整を行う。学校現場の意見については、実習先を訪問する教員が実習校担当者の意見を聴取し、これを栄養教諭校外実習委員会において集約する。カリキュラムに関することについては、健康栄養専攻会議が協議を経た上で教務部会において対応する。

〔長所・特色〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

教職を担うにふさわしい学生であるかを、明確な基準を設定し、履修希望学生に丁寧に周知していることが長所としてあげられる。オリエンテーションで教職課程のガイダンスを実施すると同時に、「履修カルテ」を記入させ、教育実習受講資格を含めた自らの資質の振り返りを行わせている。さらに、教育実習履修に関しては、教育実習履修基準を設定し、実習参加の可否及び成績評価について責任をもって行う等、基準を定め教職課程の運営を行っている。また、1年の学生を参加させての実習報告会の実施も特色のひとつである。

本学では、学生指導がクラスアドバイザー制によって行われ大きな成果をあげている。教職課程の指導、特に履修相談や履修に関する課題等に関して、アドバイザーと連携を取りながら行われることが多い。この点も本学の教職課程の大きな長所・特色である。

〔取り組み上の課題〕

教職を担うべき適切な学生の確保・育成に関しては、今後も現在の取り組みを振り返りつつさらに改善を続けていくことが課題である。学生への情報提供の機会を増やすことにより教職課程への理解をさらに深め、その学習を一層深めること、また、特に教育実習に参加する履修基準については周知や指導を徹底すること等が重要となる。さらに、履修上の問題が生じた際の相談、指導体制の一層の構築も重要となる。教職課程の履修や教育実習等について全般的な相談にも応じているが、今後、さらにこうした機能を組織的に強化し教職を担う学生の育成に中心的な役割を果たしていくことが望まれる。近年、さまざまな配慮を必要とする学生が増加する傾向にある。これは教育実習指導においても同様である。配慮を必要とする学生への対応について、実習校と連携しながら取り組んでいくことも課題となっている。

根拠資料

- ・ 栄養教育実習要領
- ・ 栄養教育実習実習報告会

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

〔現状説明〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

必要とされる情報活用能力向上のために、授業だけでなく校務においても実践に活用できる情報活用能力を系統的に育成するカリキュラムを編成している。1年次において「情報システム論」、「教育方法論」を履修するとともに、学校栄養教育論等の各授業内における模擬授業等の場面で ICT機器の活用、アクティブ・ラーニング型授業の実践例を基に、ICT 機器の活用や情報活用能力を育成する指導計画、学習指導案等の作成を実施している。

〔長所・特色〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

公立学校教員採用試験の受験指導については、専攻内の教員が中心になって対策講座を開講している。また、学生の要望がある場合には、教員採用試験対策、2次試験対策についての相談助言を行っている。教職へのキャリア支援については、学生の意欲や適性を把握しつつきめ細かい学生への情報提供を行っていることが、本学の教職課程の特色となっている。学生の意欲や適性に関する取り組みに関しては、事前指導・事後指導により、教職に対する自覚と責任、意欲喚起への指導を行っている。実習に向けての意向調査を行い、教職に対する理解と自己の適性について指導をしている。教育実習に関する指導に関しては、実習前に5回実施し、実習終了後には実習報告会を実施することで教育実践への意欲喚起等の指導をしている。また、2年後期に教職実践演習を週1回実施し、教職に対する心構えや責任、教育実践への理解について、個別指導も含めながら指導している。こうした取り組みを基礎として、全学組織である進路支援部が専門性を活かしてきめ細かいキャリア支援を組織的に行っている。また、卒業生や教育委員会等と連携して教職への情報提供を細かく行っている。教職に就くために、「各都道府県の教員採用試験」情報、「私立学校の教員採用」情報、「臨時講師登録」情報、「幼稚園・こども園採用」情報、各種情報提供が行われており、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が構築されている。

〔取り組み上の課題〕

例年、秋田県の公立学校栄養教諭採用人数は若干名であり令和5年度募集はなされなかった。教員の定年延長や学校の統廃合などの利用により栄養教諭の任用増加の見通しはなく、こうした状況をふまえて県外の栄養教諭を志望する者への支援、幼稚園、こども園への採用支援などの充実が必要である。

根拠資料

- ・キャリアデザイン資料

Ⅲ. 総合評価

〔現状説明〕

生活文化科 健康栄養専攻 [栄養教諭二種免許状]

本学の教職課程に共通した特色は、建学の精神である、イエス・キリストの愛の根ざし、人間一人ひとりが神から与えられた、かけがえのない存在であるという確信に基づいている。神と人から愛されていることや、豊かな可能性が与えられていることに気づかせ、知性をはじめ全ての能力を開花させるように、教育計画を構想し、実践している。特に、女性の尊厳と特性、使命を理解させ、さらに地球家族の一員として、国際的視野をもって他人に対する尊厳と思いやりを実行できる人間形成をめざしている。上記の特色を具現化するため、本学の特色である「キリスト教学」、「女性論」等を通して、総合的な人間力を高める指導を重視した教員養成に取り組んでいる。

2つの教職課程を有する本学においては、それぞれの教職課程がその専門性との関連をもちつつ、独自にしかも全学的な協働関係をもちながら質の高い特色ある教員養成を行っている。

教職課程教育の目的・目標の共有については、各教職課程における教育目標及び目指す教師像を、三つの方針を踏まえて設定し、それを栄養士課程「履修の手引き」、新入生オリエンテーションや2年次オリエンテーション、各授業科目のシラバス等を通じて学生に周知し学生と共有している。また、関係教職員間の教職課程の目的・目標の共有については、教職関連の授業科目の授業担当者が相互に教職課程に求められる目的・目標の内容を理解し、それを踏まえて授業科目のシラバスに各授業科目の到達目標及び授業の履修を通して得られる学習成果を明記している。そして、授業担当者は授業科目の目標・内容について相互理解を行っている。教職課程を通して育もうとする学習成果については、各専攻の学習成果と関連づけて設定し、教職課程を学ぶ学生に可視化を図っている。各専攻の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)と関連づけたカリキュラム・マップ及び学習成果、半期ごとに到達目標を提示し、それらに関連付けて教員免許取得のための可視化を図っている。

教職課程に関する組織的工夫については、課程認定を受け、責任をもって教職課程の運営を行っている。専攻の教職課程における教員配置については、それぞれ教職課程認定基準を踏まえた専任教員数を充足している。教職課程の運営に関しては、「栄養教諭校外実習委員会」を設置し、教育実習の運営に特化して、教育実習の運営、学生指導全般にわたって検討を行っている。具体的な教育実習運営、実習計画の作成、学生指導を行う体制を確立している。

教職課程教育を行う上での施設・設備の整備については、講義科目等を行う一般教室を確保するとともに、図書館、調理実習室、試食室、多目的に活用できる体育館等を設置し、専門教育で使用する施設・設備を整備している。学内のWi-Fi環境の整備に努め、全学活用するコンピューター室、授業を行う教室では、ほぼその整備を完了している。さらに、ICTを活用した教職課程の授業については、ICT活用能力育成のための充実をすすめていく計画である。教職課程の質的向上に向けた取り組みとして、教職課程の科目を含めて全学の科目を対象に授業評価アンケートを実施し、学生にフィードバックを行って授業での「主体的・対話的で深い学び」を得ることのできる授業の工夫・改善を進めている。また、全学においてFD、SDを行っているが、今後は教職課程に特化したFD、SDのプログラムを実施していく予定である。教職課程の情報公表については、大学ホームページで公表し毎年更新を行っている。全学組織と各専攻の組織的自己点

検体制については、評価委員会が大学全体の自己点検評価を実施する一方、教職課程に特化した内容について、各教職課程の教育目標と今日の教員養成の課題を踏まえ、本学の教職教育の質的向上を図る目的で実施している。教職課程が行う自己点検評価を共有しつつ、全学的な課題を抽出し、それらの課題解決を図り、各専攻にフィードバックすることによって、全学的な教職課程の運営を確保している。

教職を担うべき適切な学生の確保・育成に関しては、各教職課程ではそれぞれ養成する学生像を踏まえながら、さまざまな媒体、機会を利用してガイダンスや効果的な広報を行い学生の募集や選考等を実施している。各教職課程では、それぞれの入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)を掲げ、それを踏まえながら、ホームページ、インスタグラム、さらには高校訪問等を通して広く広報を行うと同時にオープンキャンパスにおいて学科説明、相談等を十分に行っている。受け入れた学生に関しては、教職課程の履修の開始や継続のための諸基準を設定し、履修の指針を示しながら教育に当たっている。また、全ての教職課程において「履修カルテ」等を活用しながら、学生の資質に応じた教職指導を行っている。さらに、教育実習履修前年度の学生を参加させての実習報告会の実施も特色のひとつである。また、履修に関する相談などに関しては、アドバイザーと連携を取りながら行われることが多い。この点も本学の教職課程の大きな長所・特色である。こうした取り組みを基礎にして、履修基準を明確にした教育実習が行われており、専門性を活かした取り組みを行うことにより、質の高い教職課程を構成している。

教職課程のカリキュラムは、実践的指導力の育成に資するものとなっている。本学教職課程においては、実践的指導力育成の重要な場として教育実習を位置づけ、その充実を図っている。振り返りの機会等を通して実践的指導力の一層の育成に努めている。健康栄養専攻では、公開講座を通して視野を広げるとともに、現場実践力や協働する力を身につけ、地域との連携の在り方について理解を深めることとしている。教職課程の質保証については、本年度より、自己点検・評価を行い、その結果を本報告書にまとめ、次年度以降の改善に向けて取り組むというサイクルを確立した。今後、同様の手続きで教職課程の点検・評価を行うことで、質保証を行う。今後、教育庁保健体育科、秋田市教育委員会などとの連携を深めながら、教職への意欲や資質をもった学生の受け入れを増やし、地域への貢献をさらに図る。

V. 現状基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人 聖霊学園					
大学・学部名称 聖霊女子短期大学					
学科やコースの名称 生活文化科 生活文化科 健康栄養専攻					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 令和3年度卒業者数 生活文化科 健康栄養専攻					52
② ①のうち、就職者数（企業、公務員等を含む） 生活文化科 健康栄養専攻					38
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 （複数免許取得者も1と数える） 生活文化科 健康栄養専攻					11
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数） 生活文化科 健康栄養専攻					1
⑤ ④のうち、正規採用者数 生活文化科 健康栄養専攻					0
⑥ ④のうち、臨時的任用者数 生活文化科 健康栄養専攻					1
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
教員数	5	0	4	1	2
相談員・支援員など専門職員数 （学生相談室カウンセラー 非常勤1名）					